

サギタリウス・チャレンジ チャレンジ部門
企画実施報告書

タイトル	子供向け科学体験イベントの開催		
実施日	洛南イベント：2018年	8月	10日（金）
	上賀茂小学校：2018年	12月	9日（日）
代表者	学生証番号	氏名	
	744735	田野中 瞭	
企画概要	<p>[イベントの開催目的と理由]</p> <p>科学の楽しさを子供達に伝えるため、科学体験イベントを2回実施した。イベントで行った内容としては、スライムづくりや人工イクラなど子供達がわかりやすく、楽しく思えるような体験をしてもらい、科学の楽しさを感じてもらえるようにした。</p> <p>[イベントの詳細]</p> <p>洛南イベント</p> <p>場所：洛南イオンショッピングセンター</p> <p>日時：2018年8月10日 11時～17時</p> <p>協力：ビートライブ</p> <p>ブース：スライム、リニアモーターカー、つかめる水、人工イクラ</p> <p>募集方法：洛南イオンでポスターを掲載してもらい募集した。</p> <p>当日のスケジュール：一定の時間ごとに区切りをして、間に休憩しそれを数回繰り返した。</p> <p>上賀茂小学校</p> <p>場所：上賀茂小学校</p> <p>日時：2018年12月9日 10時～12時</p> <p>協力：上賀茂おやじの会、ビートライブ</p> <p>ブース：スライム、リニアモーターカー、人工イクラ、電気クラゲ、パラシュート、紙飛行機</p> <p>募集方法：上賀茂小学校や近隣の幼稚園などにビラを配り募集を行った。</p> <p>当日のスケジュール：1時間20分の間で各ブースを回ってもらい、その後全体としてビートライブのダンスパフォーマンスや全体実験を行った。</p> <p>*両方のイベントの対象は、幼児から小学生高学年までを対象とした。</p>		
活動状況	<p>[活動状況]</p> <p>月に一度大学で会議を行い、イベントや今後について話し合い、今後やイベントについて何をするのか、予定などを決めている。</p> <p>イベントが近づくのと各ブースの活動を中心に活動している。具体的には当日に必要な材料の作成やイベント当日の流れをメンバーで共有、確認しその後意見を交わしイベントをよりよくしている。また、協力者や主催者と連携してイベントの場所の大きさやイベントのスケジュールの確認、募集方法などを話しあい当日スムーズにおこなえるようにした。</p> <p>イベント後は各ブースや全体で反省と課題、改善点などをテーマとして会議し次回のイベ</p>		

	<p>ントでは以前のイベントで改善点がみられたことを修正した。それに加えて、個人的にイベントを行ってどのような事を思ったかなどの内容をメンバーにアンケートをした。</p>
<p>考 察</p>	<p>[アンケート結果とイベントを終えた結果] イベント参加者の子供達にアンケートを行った アンケート内容は楽しかった、普通、楽しくなかった、やっていないから選択して記入してもらった。 アンケート結果としては、スライムのブースでは楽しかったが 91%、普通が 3%、楽しくなかったが 0%、やっていないが 5%、無記入が 1%だった。人工イクラのブースでは楽しかったが 72%、普通が 1%、楽しくなかったが 0%、やっていないが 21%、無記入が 6%だった。つかめる水のブースでは楽しかったが 84%、普通が 7%、楽しくなかったが 0%、やっていないが 8%、無記入が 1%だった。リニアのブースでは楽しかったが 74%、普通が 16%、楽しくなかったが 0%、やっていないが 6%、無記入が 4%だった。全体としては楽しかったが 100%だった。(洛南イオンイベントのアンケートより) 2つのイベントを行った事から、参加した子供達が笑顔で、アンケートの満足度から楽しんでもらえたと考えられる。また、参加人数が 100~120 名だったことから、このようなイベントは需要があったと考えられる。</p> <p>[改善点] イベントを終わった後の会議で改善点がいくつかメンバーから出てきた。 1つ目は、子供への対応である。イベントでは各ブースを全て終わり暇そうにしている子供達がいたり、あるブースでは行列ができたりして子供達が退屈していた。これは、各ブースが子供 1 人当たりにかかる時間が異なったからである。 2つ目は、自分達の当日参加できる人数を考えて班を編成するべきだったと考える。これは、ブースが多く各ブースに割り当てられる人数が少なかったからだ。これにより、一度に子供達を対応する人数が少なくなった。3つ目は溶液作りに時間がかかった事だ。これは、人工イクラを作成するため必要な溶液を作成するのに予定していたよりも時間がかかり、イベント前日までも作成に費やしたためである。 以上が改善点であるが、1つ目と2つ目の改善点は改善点にあげる理由が類似しているので、1つの改善策がその2つの改善点を一緒に消せれると考えられる。</p>
<p>所 感</p>	<p>[子供達の参加人数とアンケート結果より] 考察でも述べたように、参加人数が 100~120 名だったので、このイベントはやってよかったと思った。また、アンケートの満足度から今後もこのようなイベントに挑戦しようと思った。多くの子供達が科学に対してより一層、興味を湧いてくれれば良い。</p> <p>[今後のイベントの対策案] 考察でも述べた改善点が次回のイベントでは無いように以下の対策を行っていききたい。 1つ目の子供への対応はブース以外にも遊べるスペースを設けたり、行列があまりできないように各ブースにかかる時間を均等にしたりなどの対策をしていききたい。 2つ目の自分達の当日参加できる人数を考えて班を編成する対策としてはブースの数を減らして1つ1つのブースに割り当てる人数を増やし、一度に子供達を対応できる人数を増やしていききたい。 3つ目は溶液作りの対策としては、溶液作りをする場合はその時だけ人数をその担当するブースよりも 2~3 倍の人数を増やして時間短縮をし、当日のイベントで他のブースと違い人数制限をかけたりなどをしていききたい。</p>

以上が今後のイベントでしていきたい対策案だ。

[サギタリウス・チャレンジでの活動を通して学んだこと]

イベントでは不具合が起こることもあり、はじめは、良い対処ができなかったがイベントを行うにつれて、良い対処ができた。また、イベントではより綿密な計画や当日のスケジュールの作成や協力者、主催者との連携をしなければ、達成できなかったと思われる。なので、綿密な計画や当日のスケジュールの作成は必要だ。さらに、材料などを購入する際のルールを決める事によって、金銭トラブルが無いようにした。

以上より、サギタリウス・チャレンジの活動では計画的に実行すること、協力者や主催者との綿密な連携、団体内のルールを決めなるとをしなければ成功しないということ学んだ。

[今後について]

今後は同様のイベントをしていくと共に、メンバーが科学に関連してやりたい事を実行していきたいと思った。それにより、メンバー1人1人のモチベーションを上げていけるのではないのかと思われる。